

# リスクコミュニケーションアンケート集計結果（平成17年9月9日開催：千葉県）

参加人数 260名  
アンケート回答者数 169名 回答率 65.0%

Q1 ご自身について、ご回答ください。	
1 消費者	21 (12.4%)
2 食品等事業者	82 (48.5%)
1 農林水産業	5
2 製造・加工業	52
3 卸売業	12
4 小売業	5
5 業界団体	1
6 その他	8
3 マスコミ関係	2 (1.2%)
4 地方公共団体職員	42 (24.9%)
5 試験検査施設	9 (5.3%)
6 その他	13 (7.7%)

Q2 本日の意見交換会の開催について、何でお知りになりましたか。	
1 ホームページ	113 (66.9%)
1 厚生労働省	65
2 農林水産省	30
3 他ホームページ	5
2 新聞記事	0 (0.0%)
3 雑誌記事	4 (2.4%)
4 ポスター又はチラシ	3 (1.8%)
5 その他	34 (20.1%)
厚生労働省のメールマガジン。(製造・加工業) 農林水産省技術センターのメールマガジン。(製造・加工業) 会社で他の人から聞いた。(製造・加工業) 取引先の知人からの紹介。(製造・加工業) 業者より情報提供。(製造・加工業) 業界からの案内。(食品等事業者) 事務所への通知。(地方公共団体職員) 案内文(地方公共団体職員) 知人出席を知り(地方公共団体職員) 上司の薦め(その他) 千葉県食品コンビナート協議会。(製造・加工業) 同僚からホームページを教えてもらった。(その他) 回覧物。(地方公共団体職員) 農政事務所のFAX。(製造・加工業) 市原市消団連 うぐいすの会。(消費者) 検査使用機器販売業者より。(試験検査施設) 食品安全エクспレス。(製造・加工業) 島津科学(株)より連絡あり。(製造・加工業) 食料品消費モニターへの案内。(その他) 主務課からの通知による。(地方公共団体職員) 県担当者よりの紹介。(地方公共団体職員)	

Q3 本日の「食品に関するリスクコミュニケーション」に参加された目的は次のどれですか。(当てはまるものを全て)	
1 関係省庁の食品安全行政の取組の内容を知るため	54 (32.0%)
2 リスクコミュニケーションの取組について知るため	42 (24.9%)
3 輸入食品の安全性についての知識を深めるため	45 (26.6%)
4 残留農薬等のポジティブリスト制度についての知識を深めるため	135 (79.9%)
5 常日頃から抱えている食品の安全性に係る意見を行政に表明するため	2 (1.2%)
6 その他	6 (3.6%)
リスクコミュニケーションで参加者の対応を知るため。(製造・加工業) 消費者団体の意識がどのようなものか知るため。(卸売業) ポジティブリスト制度の進捗状況の確認のため。(食品等事業者) 当社でもリスコムを行うための参考とする。(地方公共団体職員) 消費者、関係団体の意見を聞くため。(地方公共団体職員) 各業界の意見を知る。(地方公共団体職員)	

Q4 演者からの説明についてお伺いします。その説明内容について、十分に理解することができましたか。	
1 できた	40 (23.7%)
2 おおむねできた	109 (64.5%)
3 あまりできなかった	18 (10.7%)
4 できなかった	1 (0.6%)
SQ1 (Q4で「3 あまりできなかった」、「4 できなかった」と回答した方) 十分に理解することができなかった理由は次のどれですか。(当てはまるものを全て)	
1 用語など内容が理解しにくい	6
2 説明資料が見にくい	1
3 説明が聞き取りにくい	4

4 自分が理解していることとは異なる説明である	5
5 その他	
<p>事前意見、質問回答に関する具体的解説を分かりやすく説明してほしい。(消費者)</p> <p>スピードが速い。(地方公共団体職員)</p> <p>輸入や消費者のことばかり目がいっている。国内の生産者に対するビジョンが見えない。(地方公共団体職員)</p> <p>論点がずれている。(食品等事業者)</p> <p>これから検討していくことが多く、みえてこない点があった。(製造・加工業)</p> <p>制度については、既に耳にし、聞いているので、理解はできますが、これから制度施行に先がけて、何をすべきかのヒントが不明瞭だった。(製造・加工業)</p> <p>おおむね分かるが何か具体的な例を示してほしい。(その他)</p> <p>うわべをかじった程度。(製造・加工・卸売業)</p> <p>もっと具体的な内容について知りたかった。(地方公共団体職員)</p>	

<b>Q5 本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。意見交換は分かりやすく、議論の内容等について理解できましたか。</b>	
1 できた	26 (15.4%)
2 おおむねできた	105 (62.1%)
3 あまりできなかった	24 (14.2%)
4 できなかった	2 (1.2%)
<b>SQ1 (Q5で「3 あまりできなかった」、「4 できなかった」と回答した方)</b>	
<b>理解できるようにするためにはどうすればよいと感じますか。(当てはまるものを全て)</b>	
1 専門用語は解説を加えるなど、できるだけわかりやすく説明する	5
2 説明がだらだらと長いので、要点を簡潔に述べる	14
3 内容毎に区切って意見交換を行い、議論が拡散しないようにする	8
4 最初に全体的な意見交換の流れがわかるよう説明する	3
5 その他	
<p>消費者団体の人が殆どの議事を進行しており本当にききたい事がうすれた。(製造・加工・卸売業)</p> <p>参加者の対象をカテゴリー分けした方がいいのでは。(マスコミ関係)</p> <p>もう少しゆっくり説明してほしい。(地方公共団体職員)</p> <p>消費者団体の人は、もう少し勉強してほしい(科学的なもの)。生産者だって加工者だって「消費者」なので、禁止するだけでは食べるものがなくなる。(製造・加工業)</p> <p>消費者団体などのレベルが低すぎる。(その他)</p> <p>消費者団体の意見に流されすぎていて話がかみ合っていない。(製造・加工業)</p> <p>生産者の意見をもう少し発言させるべきだと思う。(製造・加工業)</p> <p>農業士の藤崎さんが言われたようなポジティブリスト制度で国民の健康安全をどう守るか、農家はどのように気をつけるといいかという話が聞かれなかった。(消費者)</p> <p>時間が足りず、表面的な議論でおわっている。(地方公共団体職員)</p> <p>消費者、生産者の代表の方の意見はわかりやすかったが、省庁関係者の方の言い方がまわりくどく感じた。時間・人手・資金的に大変なのはわかるが、言い訳ではなく充分な議論をお願いします。(地方公共団体職員)</p>	

<b>Q6 本日のリスクコミュニケーションの内容についてお尋ねします。満足できましたか。</b>	
1 できた	13 (7.7%)
2 おおむねできた	85 (50.3%)
3 あまりできなかった	46 (27.2%)
4 できなかった	4 (2.4%)
<b>SQ1 (Q6で「3 あまりできなかった」、「4 できなかった」と回答した方)</b>	
<b>理解できるようにするためにはどうすればよいと感じますか。(当てはまるものを全て)</b>	
1 最初の説明が難しく、理解が深まらなかった	5
2 意見交換の時間が短い	7
3 説明等が一方向的で意見交換になっていない	11
4 論点がぼやけるなど、意見交換の進め方に問題がある。	28
5 意見交換して欲しい意見が取り上げられなかった	8
6 その他	
<p>意見交換の時間が少ない。(地方公共団体職員)</p> <p>リスクコミュニケーションの説明は必要ないと思います。その時間を意見交換の時間に。(消費者)</p> <p>安全と安心、不安とのギャップが埋まらなかった。食品の安全に関する情報(作物別、国別)の開示もなく説明されていた。これまでの制度から、ポジティブリストになることでどれだけ国民の健康が守られるようになったのか分からなかった。(消費者)</p> <p>パネリストの発言が明確さに欠けていた。(卸売業)</p> <p>コーディネーターは内容に精通した行政担当者の方が良かったように思えます。広瀬さんもパネラーとして参加して頂きかった。(地方公共団体職員)</p> <p>輸入食品のトレーサビリティについてパネリストの理解が不十分である。冷凍ホウレン草の事例が理解されていない。(卸売業)</p> <p>消費者、生産者、輸入車、加工者等が一緒だったので。(製造・加工業)</p> <p>残留基準を守った安全食品をどう提供していったらいいのか、メーカー・行政が何をしたらいいのか、もう少し踏み込んでほしい。(製造・加工業)</p> <p>国や県の取り組みを聞いただけの印象。コミュニケーション=相互理解を考えるが、コミュニケーション→説明会になってしまった。(農林水産業)</p> <p>生産現場レベルのもっと具体的な内容・ドリフトの問題などくわしい内容を知りたかった。(地方公共団体職員)</p>	

Q7 以下のそれぞれの設問について、【意見交換会に参加する前】、【意見交換に参加して】当てはまるものを1つ選んでください。

①輸入食品の安全対策の内容について		
【意見交換会に参加する前】		
1 知っていた		127 ( 75.2%)
2 知らなかった		27 ( 16.0%)
【意見交換会に参加して】		
1 理解が深まった		93 ( 55.0%)
2 変化なかった		58 ( 34.3%)
3 わからなくなった		5 ( 3.0%)
②輸入食品の安全対策について		
【意見交換会に参加する前】		
1 安心していた		32 ( 18.9%)
2 どちらともいえない		102 ( 60.4%)
3 不安だった		23 ( 13.6%)
【意見交換会に参加して】		
1 安心感が高まった		24 ( 14.2%)
2 変化なかった		121 ( 71.6%)
3 不安感が高まった		11 ( 6.5%)
③残留農薬等のポジティブリスト制度の内容について		
【意見交換会に参加する前】		
1 知っていた		134 ( 79.3%)
2 知らなかった		23 ( 13.6%)
【意見交換会に参加して】		
1 理解が深まった		88 ( 52.1%)
2 変化なかった		63 ( 37.3%)
3 わからなくなった		5 ( 3.0%)
④残留農薬等のポジティブリスト制度への印象について		
【意見交換会に参加する前】		
1 安心していた		26 ( 15.4%)
2 どちらともいえない		104 ( 61.5%)
3 不安だった		27 ( 16.0%)
【意見交換会に参加して】		
1 安心感が高まった		20 ( 11.8%)
2 変化なかった		121 ( 71.6%)
3 不安感が高まった		15 ( 8.9%)
⑤厚生労働省の取組（リスク管理やリスクコミュニケーション）について		
【意見交換会に参加する前】		
1 信頼していた		34 ( 20.1%)
2 どちらともいえない		113 ( 66.9%)
3 信頼していなかった		9 ( 5.3%)
【意見交換会に参加して】		
1 信頼感が深まった		41 ( 24.3%)
2 変化なかった		106 ( 62.7%)
3 不信感が深まった		7 ( 4.1%)

SQ1 Q7の⑤で厚生労働省の取組について「3 信頼していなかった」、「3 不信感が深まった」と回答された方にお尋ねします。何が問題だと思われませんか。

メリットに加えてデメリットもあるはず。それも明確にして欲しい。(製造・加工業)

わけのわからない消費者を受け入れすぎ。せっかく数字で理屈付けをしようとしているのに不安だからと言っては、産業として進めることはできない。(製造・加工・卸売業)

業者に対して「改善命令を出したが」と事故が起きた時よく官庁は言うが、改善されたかまでチェックしてほしい。(その他)

明確な回答が少ない。各業界(外食、農家等)が納得できるような指針を細かく見直すべき。各方面への具体的指示、検査方法への説明が足りない。(製造・加工業)

省益優先の発想である。「輸入検査員の増員が必要だ」という意見は我々にとってありがたい」といった発想は国民を無視した、省益だけを考えている証明である。この発想がエイズ、アスベスト問題を引き起こしたのではないか。(製造・加工業)

輸入食品のトレーサビリティ、安全性に対して指導している内容、その成果をきっちりと国民、消費者にアピールし、いらぬ不信感を取り除くべきなのに、その発言のために責任を負わされるのは避けたいと思っているのか？(卸売業)

ポジティブリスト制度を導入するまでに、消費者の意見はどれくらい参考にしましたか。生産者には意見を聞きましたか。農水省とは連携しましたか。ポジティブリストにより国民にはどのような利益がありますか。生産者をしばりつけ、消費者には得のない制度になっていませんか。自給率がますます減ることにはなりませんか。(地方公共団体職員)

消費者の信頼を得る啓蒙の意味からも国の検査場を一般公開すること。生産者、販売者、消費者の信頼関係の崩壊が全ての原因。(消費者)

説明が不十分。もっと分かりやすい説明が必要である。また、バネラー(国)の能力不足。充分説明がなされていない。(地方公共団体職員)

厚生労働省内の井の中の蛙にならず、国際的な立場で物事を考え行動を期待したい。(試験検査施設)

情報公開の不足。PR不足。(小売業)

目先だけの取組で真の取組が見えない。(製造・加工業)

消費者と生産者、それとのつなぎの行政ではない？(地方公共団体職員)

加工食品において。検査、分析など大変なコストがかかる。どの程度の検査で済むのか現状では分からない。(製造・加工業)

国民に目を向けていないように感じた。国民が知りたいのはスーパーで買う輸入野菜、果実、精肉などについて、個別の方法(農業・業の使用状況、及び安全確認の調査結果)です。(消費者)

## Q8 輸入食品及び残留農薬について、何が問題だと思われますか。

基準値を決めたという説明だけで実態に関する情報公開が少なく、輸入野菜・果実は危険なのか？という不安をあおられる。(消費者)

トレーサビリティの難しさ。(地方公共団体職員)

輸出元の検査状況がよく分からない。しっかりした国もあるが、中国、韓国と聞くと買いにくい。(その他)

検査体制が甘いとの網をくぐり抜ける事業者が出る。(食品等事業者)

使用農薬の実態などのトレースと、検査方法の確立。(試験検査施設)

安全性やリスクについての正しい認識を共有できていないことが最大の問題だと思いました。(その他)

トレーサビリティがとれないと根本的解決にならない。(製造・加工業)

生産地(国)における意識向上のためにトレーサビリティを推進してほしい。(消費者)

海外では農産物の栽培で農薬が社外秘情報となりえる場合があり、会社対会社間ではなく、国対国での周知、協力体制が必要不可欠となるのではと考える。トレーサビリティができない。(製造・加工業)

リストに載っている農薬が使用頻度などの詳細を考えて載せているかどうか。(その他)

「輸入食品の安全性を保証する、または責任を持つ人は輸入業者である」と言うことが分かっていない発言が目立つ。国は違反の可能性が高そうな項目をチェックしているだけであり、国の検査が輸入食品の品質を保証している訳ではないと言うことを、全数検査などを要求する人たちに理解させてもらいたい。(製造・加工業)

食品添加物は別途規制があるのに、残留農薬のポジティブリストの規制外であるが、通念上食品である理由で対象となるというのは矛盾がある。メーカーの負担が大きい。小さなメーカーには特に負担が大きい。(製造・加工業)

残留農薬などの基準が設定されていない国からの輸入品の有無が分からないのだが、外国と日本の基準に対する認識の違いが心配である。(地方公共団体職員)

BSE問題等日本では厳しくしたと思ってもアメリカの力(政治的)に押し切られていることが残念だし問題だと思う。体の中に入った農薬は外に出ないので50年、100年先も安全であるかどうか心配で問題だと思う。(消費者)

日進月歩の技術革新に遅れずに付いていってほしい。(消費者・製造・加工・卸売業)

実際に分析する面で物理的に(時間、費用、人員など)問題という状況は分かった。ではどうやって運用していくのか。(業界団体)

分析体制をもっと国民に開放した取組が必要。食品分析登録機関の民間関係は名ばかりでハイテク～医薬品登録の分析を行っている大手分析会社が実態参入できない障壁を撤廃すべきと考える。(試験検査施設)

先行サンプルの検査制度。実際に輸入するものと本当に同じものであるか。(試験検査施設)

より多くの人が、農業を含む食品に関する安全性、健康に対する影響に、正確な知識を持つように努め、偏った情報や思いこみに左右されない社会をつくること。(小売業)

色々な立場の方が集まりそれぞれ説明してもらえた点。(業界団体)

残留農薬分析値が信頼できるものかどうか。(試験検査施設)

日本の国力低下ですか。メーカー要望への対応が遅れている。(製造・加工業)

輸入食品→根本的には政府が食糧自給率を上げようとする施策をきちんとしていないことが問題。(消費者)

重複検査、問題が起きたときの責任の所在。安心をどこに求めるか。(地方公共団体職員)

法律の公布から施行までの期間が短かすぎる。一律基準の基準値。今後ADI評価ができるものは早急に見直すべきである。(製造・加工業)

検査機器の台数が少ないのでないか。人員を増やしたのは理解できたが…。(製造・加工業)

コスト負担のことを考えていない。(その他)

海外の農家、事業者への制度の周知徹底(契約農家でないと「お願い」ベースになり強制力に欠ける)。(卸売業)

各国での農薬の登録基準が統一されていないことではないか。(農林水産業)

検査の少なさ。生産者、輸入者、加工者、販売者、消費者が自主検査をする必要がある。理由は消費者を守るため、及び、それぞれが自分の責任ではないことを後から証明することができるため。(その他)

各国独自の使用基準、残留基準が設定されているため、国際的整合性がとれていない。一部輸入業者の法に対する知識不足及び輸入食品に対する確認不足。(製造・加工業)

トレーサビリティの不足。検査方法が確立されていないこと。(地方公共団体職員)

目的物質が多すぎて、それを全て検査できるわけがないのにするべきだと思っている人が多くいること。(その他)

信頼関係と統一基準の厳守。(消費者)

体内に摂取されたものが、蓄積された時の健康被害や子供への影響がどのようになるのかが問題だと思います。(製造・加工業)

①トレーサビリティがどこまで国際的に、また輸入業者が実際に作り上げられるか、特に輸入する業者の責任自覚が国の検査よりも優先すると思います。②検査・モニタリングの進化、実際がつくれるのか。③正しいリスク評価の情報提供を消費者にすること。(消費者)

残留農薬については過去の農薬毒性のイメージがぬぐいきれていない。これを払拭するのは大変。(地方公共団体職員)

リスクはゼロにはできないことを(特に消費者が)理解するべきである。(地方公共団体職員)

最近中国の野菜を買わなくなりました。対日本にいい印象を持っていない国は、輸出するのに良い農作物を作ってくれないと思います。(消費者)

生産者・生産地域調査。(製造・加工業)

輸出国の生産状況が正確に把握できるかどうか(特に添加物・農薬)。(地方公共団体職員)

分野が違うが肝炎やAIDSの様に後から問題が生じること。(製造・加工業)

違反食品を廃棄することは資源の無駄である。(製造・加工業)

輸出国と日本の温度差。(地方公共団体職員)

ルールを厳しくしても守らない例が多い(他の分野で)。コンプライアンスが重要。(製造・加工業)

トレース不足、情報不足。(製造・加工業)

加工食品の数多い素材(原材料)に基準を造る(多くの労力とコストを要する)。(製造・加工業)

それぞれの生産工程において、各事業者が自分たちの利益を優先する体質がある事と、日本の消費者が正しい知識を持たずに危機感のみを口にする事。(その他)

本当に問題となる農薬以外の足かせが大きく、多業種に迷惑がかかるのでは。(消費者)

どちらにも言えることだと思いますが、トレーサビリティがはっきりしない状況を改善して頂きたいと思います。(その他)

外国との基準が日本と同じではない点、グローバル基準がコーデックスのみ。広く外国と日本の考え方を説明すべきではないか。(試験検査施設)

できるだけ多くの輸入食品をやり、それが安全であるという保障の元に日常生活を過ごしたいし、そのためにはもっと費用をかけ子孫まで悪い影響が蓄積しないようにすべきだ。この点で和田さんの意見に同意し、且つ藤井参事官等のバックアップをし、完全な方向に持って行って欲しい！(その他)

日本の生産者のたたき立てられている厳しい立場と輸入品の状況に不公平を感じます。現在、生産者は登録に基づき、基準を守って生産しています。品目によっては無農薬で作らざるを得なくなり、生産できなくなる可能性もあります。しかし現在の流通では、穴一つ、虫一匹許されません。しかし輸入者は、何を使っているかわからないまま販売している、これが許されて良いのですか？(地方公共団体職員)

本日は動物薬についてが欠けていました。(地方公共団体職員)

トレーサビリティが重要。国によって使用できる農薬が異なる。(地方公共団体職員)

あまり基準を厳しくすると輸入がストップすることもあるという厚労省の人の意見があったが、やっぱりと思った。アメリカ産小麦とかも輸入しやすくしているのでは…。海外現地加工の問題点も知りたかった。(マスコミ関係)

生産国の農薬使用状況について情報があれば、公開して欲しい。国内の使用実態についても農水省で把握していることは公開して欲しい。把握していないようなら実態を調査して公開して欲しい。(地方公共団体職員)

環境・文化の異なる国からの輸入品が多い中で、より相手国の内容を理解してゆく必要あり。(食品等事業者)

輸入業者の指導不足と安全性の欠如。(食品等事業者)

1. ドリフトや土壌残留はないと言っているが、実際はある。 2. 検査数値について、検査品目数に対してどれくらい出ているか不明なので不安である。(小売業)

どうして輸入食品が増えるのか、残留農薬問題が起こるのかという本質を話し合うことなしに現象のみを取り上げている。(卸売業)

消費者の自己責任を明確にする必要もあると思います。(食品等事業者)

検査について 1. 費用 2. 時間 検査機関が間に合うか心配。(食品等事業者)

一般国民の正確な理解。(製造・加工業)

輸入食品に関して生産者の状況がみえない。(製造・加工業)

世界の基準と日本の従来の基準との違い。(製造・加工業)

厚生労働省への不信感が強いこと。輸入をし易くするため、輸入・製造業者のため、制度改正するのではないかと、という疑念がある。(製造・加工業)

水際でのチェックで輸入を止める制度を強化しても混乱を生むだけ。現地(特に中国の)農産物生産者への指導等を強化しないと問題は解決しない。(製造・加工業)

消費者へのイメージ受け取り方が心配です。ドリフト問題での違反。(製造・加工業)

輸入食品に限定されて議論されている様ですが、国内産品の品質の補填は？(製造・加工業)

検査費用がかかりすぎることや検査設備が整ってないこと。外国と国内との認識の差があること。消費者の過剰な反応(体に毒)に対応していないこと。(製造・加工業)

全てをトレーサビリティできない、分析できないと思っている食品業者と行政に対し、流通・消費者は完璧を求めている。そのギャップがどうやってもなくならないこと。(製造・加工業)

残留農薬は加工食品では製品での残留値の検査を行い、出荷停止や回収が可能だが、生食の場合では検査結果を待っていたら品質が劣化しすぎることになったり、回収しようとしたときにはすでに食べてしまっているということになること。(製造・加工業)

危険性、生産状況について消費者は理解していないまま制度化が進んでいる。海外の生産状況、農薬使用状況の理解が薄いま、制度化が進んでいる、と思われる。(製造・加工業)

国際基準のみをどの国も採用すれば標準化される。各国毎で基準があることで複雑化している。(製造・加工業)

加工食品の原料までのトレサについて食品業界は非常に硬直的にとらえています。加工食品自体を検査し、残留農薬が不検出であれば、原料トレースは省略(原料での残留もゼロとみなす)できる、というような整理を、11月の告示時に含めていただきたく、お願いします。(農林水産業)

大筋においては方向は正しいと思うが、細かい個々の問題については、考え方に違いがある。細かい点はやはりこういうところの話ではないようだ。(農林水産業)

今までは基準値がなかったことが問題。ポジティブリスト施行後は一律基準が問題、根拠に欠ける。(農林水産業)

残留農薬ポジティブリスト化に対応するまでの準備期間が短いこと。各団体などからもまだそれぞれの見解すらでない(だせない状態)そのため末端での対応方法(対策)がとりづらい。本当に施行時にまにあうのか不安である。(製造・加工業)

生産地、生産者の状況がわからない。農薬の使用も含めて、トレーサビリティが必要である。(消費者)

輸入食品のトレーサビリティについて検討してほしい。(消費者)

“人格”の欠落した事業者等(行政、大企業、個人企業とか〜構成員は一般消費者との矛盾?)の存在。法律の問題ではなくモラルの問題(食品に限らず)。(消費者)

## Q9 本日のリスクコミュニケーションの進め方についてお尋ねします。

今回のリスクコミュニケーションでは、第一部をテーマに関する説明、第二部にパネルディスカッションと意見交換としています。リスクコミュニケーションの構成、テーマの選定、募集方法などリスクコミュニケーションのあり方全体について、良かったと思う点、改善すべきと思う点につき記載下さい。

### 1 良かったと思う点

positive listは新しい制度でしたが、もう一度読みかえてみたいと思います。ホームページで見るとはおっくうですがこのような会があれば集中し専門的な話が聞けるので大変よい。(消費者)

パネラーの意見は消費者、生産者の方が面白かった。(農林水産業)

一方的な説明だけでなく、意見交換に時間を多くかけていた。生の意見、回答が得られた。(製造・加工業)

様々な意見が聞けたので良かった。消費者(一般とは思えませんでした)の問題点がつかめましたので。(製造・加工業)

制度がある程度分かったが、数値ではよく理解できない。(その他)

パネラーの方々がわかりやすい表現で話してくれたことが良かった。パネラーの人は意見交換会にとって大切な点だと思いました。(製造・加工業)

一部でわかりやすい言葉で説明されていたこと。(製造・加工業)

全体的に良かったと思います。(製造・加工業)

タイムリーなテーマが取り上げられている。(卸売業)

各々のテーマのイロハが理解できるのはよい。(製造・加工業)

立場の違う人の意見が直接聞けて、考えられたところ。(製造・加工業)

事前意見を取り上げて丁寧に返答して頂き、大変参考になりました。(食品等事業者)

消費者代表、生産者がパネラーとして参加されたこと→意見交換がスムーズに進んだ。(食品等事業者)

論点をはっきりさせてすすめている点でわかりやすかった。(地方公共団体職員)

構成(特に一部の説明については資料がわかりやすかった)。(食品等事業者)  
よくコーディネートされたと思う。(地方公共団体職員)  
消費者・生産者それぞれの食に対する考えが聞けた。(地方公共団体職員)  
消費者の立場を主張した。(その他)  
業者の本音が会場から聞けて良かった。農業士の方がおられたが、食品加工の話が主になっていたのかわいそうだった。(その他)  
私は業務用の油などを販売している会社につとめ、表示などに携った仕事をしています。表示がどれだけ大切なものなのかを改めて知り、消費者の方、生産者の方のお話が聞けた事がとても良かったです。(小売業)  
2部構成は良かったと思います。(地方公共団体職員)  
パネリストの進め方は良かったと思う(意見表明者の取り扱い方)。理解が深まった。(地方公共団体職員)  
内容的にはかなり砕いたもので理解しやすい。(その他)  
H18.5より法令が施行されるのが確定しているという意識統一ができた。(消費者)  
資料が充実していた(難しい用語をしっかりと説明していた点)。(製造・加工業)  
一般消費者には一部のテーマで説明があったので分かりやすかった。(製造・加工業)  
説明が分かりやすかった。(製造・加工業)  
パネラーの方が前向きに意見をされていたので良かった。(地方公共団体職員)  
積極的に意見交換しようとする厚労省のスタンスは良いと思う。(地方公共団体職員)  
一般消費者、食品関係業者など違った立場の方々が一室に介して食品安全について話し合いができることは良かった。(消費者)  
つまらない質問に対しても丁寧に答えていた。(製造・加工業)  
この方式がもっとも良いと思われる。(地方公共団体職員)  
説明→ディスカッションの構成は良かった。(食品等事業者)  
最初に内容の説明があって、さらにディスカッションであったので、分かりやすかった(理解しやすかった)。(製造・加工業)  
生産者や消費者団体の人がパネリストに入っていること。(その他)  
縦割り行政の欠陥を連携、共有することは非常に進歩的だと思う(厚生労働省、農林水産省)。(消費者)  
ポジティブリスト制度について、言葉だけが一人歩きしていたところがありましたが、少しは理解することができたこと。(製造・加工業)  
色々な立場の人たちの考えが聞けて参考になった。(製造・加工業)  
議事進行の方の内容進行とまとめ方。(卸売業)  
様々な見方があることが分かりました。その中で農業士の方のコメントが的を得たものでした。食品業者の方も同様に紳士な態度で食の安全を考えていただくというように。全ての工程で、「検出されない」努力をするのが本来の姿です。(その他)  
消費者、生産者の皆様には役に立つ会であったように思えた。(試験検査施設)  
厚生労働省、食品安全委員会などの取組についてしっかり理解できた。(試験検査施設)  
一般参加者の意見、またそれに対する政府の回答が同時に聞けて大変勉強になった。(地方公共団体職員)  
テーマに関する説明がとても分かりやすかった。(消費者)  
法の成立の背景を深く知ることができた。(その他)  
意見交換ができること。(製造・加工業)  
コミュニケーションが長くとれていた。(地方公共団体職員)  
よく話が聞けて。(地方公共団体職員)  
一般的な話で理解は深まった。(試験検査施設)  
基調講演。(地方公共団体職員)  
自分のように認識が浅いものにとっては一部、二部分けたことでより理解しやすかった。(食品等事業者)  
パネリストに色々な方々をお迎えしてましたが、それに対して①の方々ディスカッションの方が本当に今知りたい事、疑問に思っている事が活発に出てきたのではと思います。(消費者)

## 2 改善すべきと思う点

パネルディスカッションについて、一般消費者向けのレベルにしてほしい。国民の健康保護という観点で国民の視点で話しをしてほしい。(消費者)  
もっと深い個別のテーマについても、情報が欲しい。(試験検査施設)  
大きな改正であると思うので、質問、意見交換の時間がもう少し長ければ良かったと思う。(製造・加工業)  
ディスカッション、論点がぼやけていた。(地方公共団体職員)  
生産者に農作物を作る時点での農薬使用量の説明が必要で、加工業者では作って検査して農薬が出るのでは意味がない。農協、生産者に対して説明してほしい。(その他)  
パネリストの人が参加者に対して「事実と異なり、過剰に不安をおおるような発言」をされては困る。(製造・加工業)  
リスクコミュニケーションという単なる消費者向けの説明会になっている。科学的なコミュニケーションはとれないのか？(業界団体)  
パネリストはテーマに関する説明は聞いていないのだろうか。もし、そうであれば最初からの参加を望みます。(製造・加工業)  
リスク問題が途中より消えてしまっていた。(製造・加工業)  
検査することだけが食の安全確保のための方策ではありません。HACCP、ISO9000、ISO22000といった仕組みによる安全確保という視点の説明が消費者の理解を得るためには必要ではと思います。(消費者)  
主点はどこ？消費者、業界、全部？行政が主に考える。(地方公共団体職員)  
一部のパネラーの内容に対する理解度が低いように思われた。発言の内容について低聞によるものがあったのでこれは避けるべきと考える。(製造・加工業)  
意見交換のテーマがぼやけてしまう。(製造・加工業)  
生産者の意見がもう少しあり、それについて議論されれば良いと思う。(試験検査施設)  
あるパネリストの方の発言で、主旨がよく理解できない箇所が多々ありました。もう少し論点をまとめて分かりやすくして発言していただきたいです。(地方公共団体職員)  
内容の範囲が広すぎたようです。輸入食品の安全確保とポジティブリストを分けるか、もっと時間をかけてやった方がよかったですと思います。(製造・加工業)  
消費者団体の方々の発言が長くぼやけていてディスカッションの内容が深まらなかった。(卸売業)  
生産者にもっと発言してもらいたかった。(その他)  
利害関係の異なるものが一同に意見交換することは考え方に混乱を招くおそれがあり、各分野団体(消費者)ごとに行うべし。(消費者)  
パネルディスカッションにつきましては、少しミーティング不足だったのではないかと思います。(製造・加工業)

平日昼間の開催では事業者関係者、時間がある主婦しか参加できない。いずれは幼児がいるような母親などが参加できるような形のリスキも行った方がよいのではないのでしょうか。ポジリスについては関与する業者が多いのでポジリスに絞って開催した方が良かったと思います。(地方公共団体職員)

テーマを絞ってパネルディスカッションを充実させた方がよい。(地方公共団体職員)

テーマはあまり絞らずに食品全般についてのリスクコミュニケーションを実施してもよいのではないか。(地方公共団体職員)

あっさりとかわして終わった気がする。もっと熱のこもった討論をして欲しかった。(その他)

パネルディスカッションはちぐはぐしていた。消費者団体は考え方が偏り過ぎている。普通の消費者を呼んだ方がよい。(製造・加工業)

もう少し各論の情報公開があってもいいのではないか。見えないところでディスカッションしてもあまり意味がない。(消費者)

行政から4、消費者1、農業生産1、ポジ制度なら加工・流通、輸入食品なら取扱店などの代表がないのはおかしい。行政が上から「こうするから従え」と言っているのに等しい。消費者の理想、現場の現実は相いれない。参加対象を分けた会を持ってはどうか。(その他)

一般人にも分かるレベルで情報公開を。(製造・加工業)

時間が短く感じた。午前中から始め、もっと聞きたかった。(製造・加工業)

コーデックスの話題に集中してしまった。大切な質問が後回しになってしまった。(地方公共団体職員)

時間がありません。(地方公共団体職員／製造・加工業)

各テーマ毎に討議を行う時間が無い。講演→討議(質疑応答)という順序の方がよい。(地方公共団体職員)

パネルディスカッション・意見交換会でパネラー間の意見がかみ合わなかった点が多くあった。(地方公共団体職員)

参加者がもっと勉強すべき。(食品等事業者)

パネリストの方の認識が低いのではないかと？知識に対して確固たる根拠はあるのか？食品メーカー、輸入者がパネラーとして参加されていないこと。(卸売業)

パネルディスカッションの消費者・行政・生産者・各々の横の意見交換は必要ない。事前にアンケート(質問)を取り、それに対し、各専門家が答えるような方式をとったほうが効率が良いしテーマ(内容)も絞られて良いと思う。(製造・加工業)

もう少し意見交換の時間をとった方がよい。(小売業)

資料が配付されたが説明の画面を大きくして顔を見ながら話が聞ければと思った(資料もカラープリントであれば)。(製造・加工業)

募集枠を増やして欲しい。また、募集をもっとわかりやすく告知して欲しい。パネルディスカッションの時間の取り方と進め方。ベルの音が不快。(製造・加工業)

消費者団体とのコミュニケーションをもっと進めて欲しい。消費者団体のレベルが今回は低すぎると感じました。特にポジティブリスト制については周知させていたかないと、食品業界全体のコストup、中小企業の対応困難が発生すると思います。(製造・加工業)

パネリストに食品業者を入れてほしい(輸入者や海外原料を扱っている大手食品メーカー等)消費者と行政、生産者だけではポジ制度議論に踏みこめていない感があつた。(製造・加工業)

もっと多様なパネラーがいてもよいと思います。(農林水産業)

パネルディスカッションについて：テーマは輸入食品、ポジティブリストに関することだと思うが、論点が主催側とパネラー(消費側)が異なり、的がしぼれていない。ならば化学物質、農薬だけにしぼったリスクコミュニケーションを行って欲しい(化学物質の安全性評価そのものが消費者代表に全く理解を得ていない印象)。(農林水産業)

専門的な話なので消費者にも理解できるはっきり聞き取れる言葉で説明していただきたい。(消費者)

**Q10 今後の厚生労働省のリスクコミュニケーションとして行って欲しい課題は何ですか？(当てはまるものを3つ以内)**

1 食品中に混入する汚染物質(メチル水銀、ダイオキシン等)の問題	22	(13.0%)
2 食中毒に関する問題	21	(12.4%)
3 検疫所や保健所の監視指導に関する問題	30	(17.8%)
4 健康食品に関する問題(表示を含む)	38	(22.5%)
5 遺伝子組換え食品に関する問題(表示を含む)	33	(19.5%)
6 食品添加物に関する問題(表示を含む)	55	(32.5%)
7 残留農薬、残留動物用医薬品に関する問題(表示を含む)	60	(35.5%)
8 輸入食品に関する問題(表示を含む)	39	(23.1%)
9 上記以外の食品の表示に関する問題	12	(7.1%)
10 その他		
化学物質そのもの、農薬について。(農林水産業)		
有機栽培作物:特に表示の規制のあり方など。(製造・加工業)		
輸入穀物に関する問題。(食品等事業者)		
国内品。(製造・加工業)		
さらにポジティブリスト制度に関する説明と問題点の解決に関する課題をもう一度お願いしたい。施行に近付けば(また11月交付告示のあと)それだけ関心も高まり明確にすべきこともでてくるだろう。(製造・加工業)		
ポジティブリストであげられた農薬の検査方法はどのようにとらむのか、実際決まったこと。(製造・加工業)		
添加物の使用基準をより明確にしてほしい(飼料添加物を含む)。ポジティブリスト制導入でより曖昧になりそうな気がする。(消費者)		
消費者に対するリスクに対する考え方のコミュニケーション(ex. リスク0のものはない)。(製造・加工業)		
重金属。(製造・加工業)		
キャベツの廃棄処分の件など、何が有効な手だてはないものか。(消費者)		
食品分析機関の民間への実質的な解放をするための取組。(試験検査施設)		
微生物による食中毒などは一般消費者と専門家間でリスク認知のギャップが大きいもの一つだと思います。(消費者)		
輸出元の検査方法、使用農薬について。(その他)		
どうしたらバランスよく食べられるかを考える会。健康によいと宣伝された食品ばかりを食べてしまう習慣をなくす手法を考える会。(製造・加工業)		